取り組みの事例（2）

士別市のブックスタート

実施年月日	平成１４年　４月　１日	配付対象　４か月児
年間出生数	約１９０人	
連携体制	図書館、保健福祉センター、読み聞かせボランティア、子育て支援センター	
実施方法	保健福祉センターでの４ヶ月健診の際に、図書館職員がブックスタートの説明を添えて絵本の入ったパックを手渡している。同時に、ボランティア スタッフによる読み聞かせ、子育て支援センター職員による赤ちゃんとのふれあい遊びなどを入れ実施している。	

士別市の概要

世帯数　９，１２９世帯	人口　２２，８５２人	面積　５９７㎢

士別市は、天塩川流域を中心とした豊富な水と緑の大地に恵まれ、農業を基幹産業として発展してきました。しかし、近年は若者を中心とした大都市への流出や、出生率の低下などで、人口の減少が急速に進んでいる町です。

本市でブックスタートを取り組むようになったきっかけですが、平成１２年から、本市の少子化対策推進のために新生児の誕生を祝福し、健やかな成長を願い、将来の士別市発展の担い手になることを期待し、出生祝記念品を贈呈する「すくすく赤ちゃん誕生記念品贈呈事業」を実施していました。

記念品の内容は、アルバムとバスタオルでしたが、平成１３年３月議会において、この記念品を、全国的な広がりを見せている「ブックスタート」として取り組んだらどうか、という質問がありましたことから、市民課を中心に、図書館、保健福祉センター、保育園などで前向きに検討することになり、同年８月ＮＰＯブックスタート支援センターの協力を得てワークショップを開き、１１月から誕生祝記念品の一部をブックスタート方式で実施することになりました。

市民の反応は良く、是非継続してほしい旨の意見が寄せられました。その後、連携機関で検討の結果、図書館で予算を持ち、別事業として独立した方がよいということになりました。

こうして、ＮＰＯブックスタート支援センター、先駆的に取り組んでいる恵庭市からたくさんの情報、支援をいただきながら、１４年４月から正式に「士別市ブックスタート事業」としてスタートしたのです。

次に、本年度の「ブックスタート事業・ふれあい遊び」の流れ・役割等を紹介しますので、参考にしてください。

平成１５年度４か月健診児ブックスタート事業・ふれあい遊びの流れ

流　れ	内　　容	役　　割
案　　内 （事　前）	７か月健診案内最終時刻より３０分早く案内し、人数は、対象人数により１～３回に分けて受付案内（１回８人を目処とする）	保健師 １名
受　　付	健康増進室にて行う みんなが揃うまでの時間随時ブックスタートの受付と絵本の説明を個別で受ける	図書館職員
オリエンテーション	健診までの流れ説明	保健師
ふれあい遊び	４か月児とのふれあい遊びの紹介 （約１０分）	保育士 ２名
ブックスタート	用意した１０種類の絵本の中から２冊保護者に選んでもらう。 その間 赤ちゃんに読み聞かせ 絵本引換券を受取りブックスタート主旨説明・絵本の入ったパックを手渡す ↓ 終わった方から順番に母子プレイルームに移動し健診を受ける	読み聞かせボランティア　２名 図書館職員 ２名

最近図書館では、ブックスタートのロゴマーク入りのバッグを持ち、赤ちゃんを連れた親子の利用が増えており、さらに子育て支援センターの利用も増え、この事業の浸透がみられます。

士別市のブックスタートが始まって、１年以上経過していますが、アンケートの中にも継続してほしい旨の意見が多数寄せられ、市民の反応は非常によく、期待されていることが実感としてわかります。

ふれあい遊び

（士別市立図書館　　斉藤　洋子）

取り組みの事例（3）　風連町のブックスタート

実施年月日	平成１５年　４月１８日	配付対象　３～４か月児
年間出生数	約３０人	
連携体制	社会教育課（主事）、公民館図書室（臨時職員）、 保健福祉課（保健師）、読み聞かせボランティア	
実施方法	３～４か月健診の待合時間に、図書室職員とボランティアがブックスタートの説明、読み聞かせ、子育て支援事業の案内、アンケート聞き取り調査を行ったあと、パックを手渡している。また、ブックスタートの対象とならない予防接種のみを受診する赤ちゃんに対しても読み聞かせを行っている。	

風連町の概要

世帯数　２，００７世帯	人口　５，４５５人	面積　２２０．６１㎢

～風連町のブックスタートについて～
赤ちゃんに絵本をプレゼントする事業ってないだろうか・・・

当町で残念ながら幼児虐待が発生し、私たち図書室で何か応援できる事業はないだろうかと考えていた時期に、道立図書館が発行する「あけぼの号つうしん」でブックスタートという事業があることを知りました。そして、幼児虐待防止の対策を検討していた保健福祉課にもブックスタート事業があることを伝え、保健師たちとの連携・協力体制を整えていきました。また、読み聞かせボランティアにも協力を依頼したところ快く承諾を得ることができ、町議会でも大いに期待されながら予算化されました。

こうして、『風連町の２世紀を担う子どもたちが心健やかに成長してほしい』とそれぞれが願い、いよいよ風連町ブックスタート事業導入が始まりました。

本年２月、先進地である中頓別町のブックスタート会場を社会教育課職員１人、公民館図書室職員１人、保健福祉課保健師２人で視察させていただきました。中頓別町では、図書室職員が、６か月健診参加者にブックスタートの説明を添えてパックを手渡し、同時にボランティアによる読み聞かせを行っており、ブックスタートの流れがどのようなものかを見学し、風連町でどのように実施するか参考にさせていただきました。

３月には、読み聞かせボランティアの方を含めた、NPOブックスタート支援センターのワークショップを開催し、支援センターからご助言をいただきながら、風連町の現状を考慮したブックスタートを検討し、その後も保健師やボランティアとの話し合いをもちながら、それぞれの役割分担や実施方法等について決定していきました。

そして、４月１８日、いよいよ第１回目のブックスタート。

風連町では、３～４か月健診と11～12か月健診を同日・同会場で行っているため、初年度は１１～１２か月健診参加者も対象に入れて実施。初めての試みという不安と、赤ちゃんと保護者がどう反応するかという期待を胸に、健診会場に１１組の赤ちゃんと保護者が訪れました。

配付対象年齢は１２か月では遅いと思い、３～４か月に設定したものの、本当に本に興味を持つのか？という不安な部分がありました。しかし、個人差はあるにしろ、多くの赤ちゃんは、目で絵本を追ったり、ことばかけに反応して笑顔を見せたりと、私たちスタッフに笑顔と安心を与えてくれました。そして、なにより喜んでくれたのは、赤ちゃんのお母さんやお父さんでした。

現在、公民館図書室では、フォローアップ事業の一つとして毎週金曜日に、乳幼児向けのお話し会「おはなしポケット」を実施しています。ブックスタートバッグを肩にぶら下げながら赤ちゃんを抱いて来館するお母さんたち、そのお母さんたちに誘われて来館する方々など、ブックスタートをきっかけに集まるお母さんたちが増えてきました。また、ブックスタート事業導入前から実施していた母親クラブ「カンガルーのポケット」にも、たくさんの方が来館するようになったので、今後もより一層保護者同士の交流や情報交換の場が充実していくようフォローしていかなければなりません。

『風連町の２世紀を担う子どもたちが心健やかに成長してほしい』という願いから始まった風連町ブックスタート。

今後、まちづくりの一環として様々な事業に結びついていく事業だと思っています。まだまだ改善しなければならないこと、フォローアップ事業の充実など、やらなければならないことがたくさんありますが、ブックスタートをきっかけに私どもスタッフをはじめ、地域・町全体で多くの子どもたちを見守り、育てていくことができればと思っています。

（風連町公民館図書室　　羽場　尚樹）

取り組みの事例（4）　栗山町のブックスタート

実施年月日	平成１４年　６月１３日	配付対象　８か月児
年間出生数	約１００人	
連携体制	栗山町健康福祉課健康推進係 読み聞かせボランティア「栗の子童話会」	
実施方法	栗山町独自の名称は「だっこ＆ぶっく」 乳幼児健診会場にて図書館職員（２名）がメッセージと共にパックを手渡す。 対象者や健診の中で手渡すタイミングは保健師の指示に従う。 読み聞かせボランティアが会場にて絵本の読みきかせを行う。参加ボランティアは３名。 パック内容は、バッグ、アドバイス集、絵本２冊、栗山町オリジナル「絵本ガイド」「子育てちょこっと便利帳」図書館利用申込書 パック代@１，５１２円（消費税含）×１２０組＝１８１，４４０円（報償費）	

栗山町の概要

世帯数　６，１１８世帯	人口　１４，８１７　人	面積　２０３．８４㎢

◆　事前に……　平成１４年６月、栗山町のブックスタート「だっこ＆ぶっく」はスタートしました。事前に乳幼児健診の担当課である健康福祉課健康推進係（保健師）、読み聞かせボランティア「栗の子童話会」に趣旨を説明し、協力の承諾を得ました。対象者は、「興味の持ち方に差が出た場合、保護者に不安を与えるのでは」という、保健師のアドバイスもあり、８か月児としました。

対象者には事前に健診のお知らせとともに「だっこ＆ぶっく」の通知をしています。

「だっこ＆ぶっく」の１年前から図書館で乳幼児を対象に絵本の読み聞かせ「すいよう★おはなし会」を開いています。

◆　会場で……　毎回、健診の１週間前に保健師から対象者数を聞き、パックを用意します。当日は午後から８か月健診ですが、対象者が午前に来場する場合には、図書館職員が出向きパックをメッセージとともに手渡しています。また、急に来場することになってもできるだけ対応していますが、８か月健診時に手渡すことが出来なければ、１歳児健診で渡しています。

図書館職員は、会場で初めて保健師から対象者を教えてもらい、パックが渡ったか渡らないかの管理は保健師が担当しています。健診会場のテーブルを借り、看板を提示して「だっこ＆ぶっく」コーナーとしています。

スタート当初は、保健師が、会場に「だっこ＆ぶっく」を組み込んだ健診のプログラムを掲示しましたが、現在では「だっこ＆ぶっく」がなじんだこともあり、掲示はやめて、混み具合などから保健師が判断し指示しています。図書館職員、読み聞かせボランティアは、名前・身分を提示したネームを付けて、絵本や図書館のことのみに対応し、それ以外の赤ちゃんの体や健康については、保健師や栄養士が対応することを徹底しています。

絵本の読み聞かせは、対象児以外でも来場している子供になら誰にでも行っています。呼び集めて絵本を読むのではなく、読み聞かせる側から絵本を持ってアプローチしています。５０冊程絵本を持ち込み、誰でも自由に手に取れるようにして、対象外の方への絵本や図書館を紹介する機会にもなっています。

◆　フォローアップ……　栗山町図書館では、児童コーナーの中に幼児コーナーがあり、赤ちゃん向けの絵本、おもちゃ、ベビーベッドを置いています。その場所で、毎週水曜日は午前１１時より赤ちゃんを対象とした「すいよう★おはなし会」を開いています。読み聞かせ後も、担当職員が１時間ほどその場に残り、絵本を読んだり、保護者と話したりとコミュニケーションをとるように心がけています。「すいよう★おはなし会」は、「だっこ＆ぶっく」よりも１年早く始めました。当初は参加者数がゼロの日もありましたが、「だっこ＆ぶっく」スタート後の今は平均６～８組の参加があります。

◆　その他……　第１回目から１年間、アンケートはがきをパックに入れ協力を求めましたが、回答は少数でした。「アンケートを健診会場で記入してもらうと回答を得られやすい」という保健師からの提案もあり懸案中です。少ない回答から見ると、本やバッグよりも、栗山町図書館オリジナルの「はじめてであう絵本ガイド」、「子育てちょこっと便利帳」が喜ばれたようです。「子育てちょこっと便利帳」には、子育て係と児童センターの協力を得て施設の案内や情報、子連れで利用できる町の施設の地図、図書館の幼児コーナーと「すいよう★おはなし会」の案内を載せています。

ブックスタートの成果はすぐに現れるものではないといいますが、赤ちゃん連れの図書館利用者は水曜日以外にも確実に増えています。また、育児教室に図書館職員が参加するなど、今までに交流のなかった保健師と連携して、図書館外で図書館活動を展開するきっかけともなりました。

（栗山町図書館　　坂口　潤子）

取り組みの事例（5）

白老町のブックスタート

実施年月日	平成１４年　４月１７日	配付対象　７か月児
年間出生数	約１５０人	
連 携 体 制	図書館、保健師、ブックスタートボランティア「ラッコの会」	
実 施 方 法	総合保健福祉センターで行われる７か月健診が対象。 乳児健診の最後に図書館職員がブックスタートパックを説明の言葉を添えて手渡す。ボランティアが健診を待っているお母さんと赤ちゃんに絵本の紹介や、読み聞かせを行う。	

白老町の概要

世帯数　９，７２２世帯	人口　２１，９２２　人	面積　４２５．６３㎢

白老町のブックスタートは、全国的にも先進地である恵庭市の取り組みを知り、何かできることからはじめよう！ということで、平成１３年度から乳児健診に図書館職員が出向いて、絵本の紹介や図書館の利用案内などをするようになりました。

そのようなブックスタートの土台作りをしながら、平成１４年度ブックスタート実施に向けて、保健師、町内で読み聞かせ活動をしている方々、図書館とで、幾度か協議を重ね連携体制を整えました。

準備期間の早いうちにベテラン読み聞かせボランティア、子育て支援活動をしている方などに（悩みを？）相談してきたことが、結果的によい連携につながったのだと思います。

連携体制と併せて、図書館内に「あかちゃん絵本コーナー」を開設し、試験的に乳幼児対象のおはなし会などを開催しました。現在も、ブックスタート配付後のフォローとして継続しています。

◆　ブックスタート・パックの配付方法

ブックスタート・パックを配付するのは７か月健診ですが、絵本を紹介するのに早すぎることはないと考え、４か月健診で健診の待ち時間に図書館職員と、ボランティアによる絵本の紹介や、「次回の７か月健診時にブックスタートがあります」というお知らせをしています。

保護者と４か月の時に少しでもお話していると、顔見知りという感じで話しをしやすくなり、ブックスタート・パック配付時に話がスムーズに伝わるように思います。７か月健診では保健師と相談し、乳児健診の最後にブックスタートの時間を組み込んでもらいました。

図書館職員が、ブックスタート・パックを説明の言葉をそえて手渡し、健診を待っている赤ちゃんと保護者にはボランティアが読み聞かせの実践や、絵本の紹介をしています。

受診者の待ち時間を短くするため、健診の流れによってはブックスタートを先に行い臨機応変に対応しています。

おはなし会

◆　白老町のブックスタート・パックの資料

①　赤ちゃんのための絵本

読み聞かせボランティアと司書が一緒に選んだおすすめ絵本のリストです。

②　元気まち しらおいすくすくマップ

赤ちゃんと一緒に利用できる施設や、サークルなどの情報満載のマップです。

育児サークルで活躍している先輩お母さんたちが、自分たちが育児をしていて、欲しい情報を調べて作成しました。

③　ラブラブパパ

ホームページ「ココキチねっと」が中心になって作成したお父さん向けの子育て応援ブック。赤ちゃんの発達や、妻への支援など、わかりやすく書かれています。お父さんだけでなく、はじめて赤ちゃんと接する方に最適な資料です。

④　図書館利用者カード申込書

利用者カードは小学生から作成していましたが、ブックスタートをきっかけに、赤ちゃんから利用してもらえるよう制限をなくしました。

⑤　アンケート

次回の健診（１０か月）の時に保健師に渡すようお願いしています。

◆　パック配付後のフォローについて

図書館職員とボランティアによる「乳幼児対象おはなし会」を毎月１回開催しています。

ボランティアのメンバーの中には、「すくすくマップ」を作成したお母さんが自分の子どもを連れて、絵本の読み聞かせや手あそびなどをして活躍しています。このおはなし会に参加して、友達ができた若いお母さんもいるようです。

図書館では、赤ちゃん絵本コーナーを設置し、赤ちゃんを連れた利用者に絵本の案内をしたり、ときには絵本を読んであげたりしています。

来館するたび成長している赤ちゃんに声をかけることで、利用者との距離が近くなったように感じています。些細なことではありますが、利用者の顔が覚えられる規模の図書館だからこそできる子育て応援ではないかと思っています。

（白老町立図書館　　本間　敬子）

取り組みの事例（6）　中頓別町のブックスタート

実施年月日	平成１４年５月２２日	配付対象　５～７か月児
年間出生数	約２０人	
連携体制	保健センター（保健師）、読み聞かせボランティア（町民３名）、教育委員会（社会教育係、図書室）、役場（総務課企画係）、こども館（保育所、こどもセンター）	
実施方法	保健センターで行う乳幼児健診（年４回）の際に、５～７か月児を対象に実施。保健師の問診で子育てと絵本の役割について説明。健診の最後に図書室がブックスタートの趣旨を説明した後、お話しのボランティアが読み聞かせを行いブックスタートパックを手渡す。	

中頓別町の概要

世帯数　１，０９３世帯	人口　２，４８８　人	面積　３９９㎢

５つの「どうしよう！？」からブックスタートへ

◆　どうしよう！？ ブックスタートをはじめたいけれど…。

乳幼児健診会場で読み聞かせをし、赤ちゃん向け絵本リストを配ることにしました。
やってみて６か月の赤ちゃんがじっと絵本に見入ることにびっくり。
こうして中頓別のブックスタートが動きだしました。

◆　どうしよう！？ ボランティアさんも不安がいっぱい。

お話しのボランティアさんは当初、赤ちゃんと保護者の方へ読み聞かせをすることに不安を感じていました。このことをのりこえられたのは、恵庭市立図書館のご協力で実際に読み聞かせをしている「ゆりかご会」の会員の方から励ましをいただいたからです。

お話しのボランティアさんを探すにあたっては、町民の方々と深いつながりをもつ保健師さんたちが、訪問などの機会に声かけをしています。

◆　どうしよう！？ 図書室の取り組み

赤ちゃんと保護者の方が安心してゆっくり本を広げられるスペースがない小さな図書室なので、こども館や保健センターを利用して取り組んでいます。

こども館子育て支援室と図書室の絵本や育児書を置かせてもらい貸し出したり、保健センターの育児サークルでボランティアさんと一緒に読み聞かせをしています。

＊こども館…保育所、子育て支援センター、学童保育所、児童館などをもった複合施設。

◆　どうしよう！？ ブックスタートフォローアップ

中頓別町には、このまちで、ともによろこびをわかち合いながら暮らすことをお手伝いする「いきいきふるさと推進事業」という取り組みがあります。あたたかい「気持ち」や「思い」を持って地域を応援しようというもので、子育てへの支援においては「絵本」にそんな期待を託しています。

１歳、１歳６か月、３歳児健診の際に読み聞かせを行い、絵本２冊とその時期に応じた絵本リストを手渡します。

ブックスタートではじまった絵本とのふれあいをずっと持ち続けられるようにと願ってのことです。

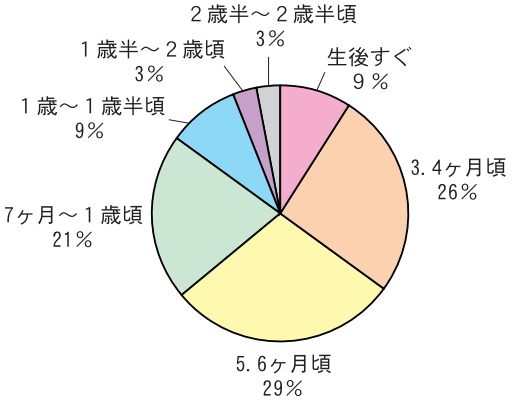
この事業は、役場の企画部門を中心に関係する各機関が連携をとり実施しています。多くの部署が関わることで、違った視点からフォローしあうことができるようになりました。

◆　どうしよう！？ これからもブックスタートを続けていくために。

継続することは一番の課題です。アンケートを行い、ブックスタートを受けた人達の声をあつめ、広報等でお知らせしていくことで町民に広く理解を得られればと思います。

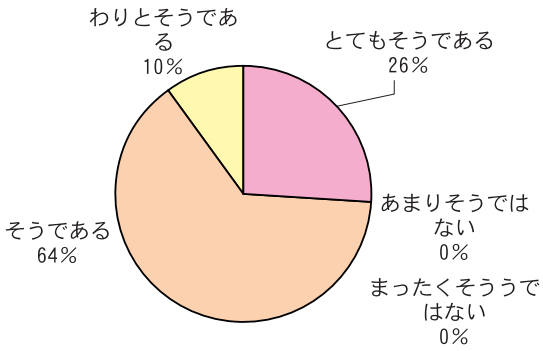
［広報なかとんべつ　掲載例］

質問「赤ちゃんはいつ頃から絵本を楽しめると思いますか。」



回答率１００％

質問「ブックスタートを受けてから親御さんが絵本に興味をもつようになりましたか。」



回答率９１．２％

（平成14年度ブックスタートアンケート結果より）

（中頓別町青少年会館図書室　　小林　真美子）

8 保護者のアンケートから

◆ 「絵本を子どもにプレゼントしてくれるなんて、とても文化的な自治体だと思います。ここに住んでいることに、誇りを感じることの出来る事業だと思います。また、図書館の方が作成してくださった本の紹介パンフレットが素晴らしいです。」（恵庭市）

◆ 「とてもかわいい絵本をいただきありがとうございました。早い時期から、絵本をみせてあげることはとても良いことだと思いました。」（中頓別町）

◆ 「ブックスタートの活動をこれからもぜひ続けていただきたいです。絵本の読み聞かせは子と親のコミュニケーションになるのですね。」（中頓別町）

◆ 「ブックスタートはとても良い事だと思います。これからもずっと続けてほしいです。」（白老町）

◆ 「結婚して子どもを産んで、全部が子ども中心になって、プレゼントなんてあまり無かったので、二人でもらえた感じだった。多くのお母さんが孤独だと思うので、これから図書館などに行って、いろんな人と接したいです。」（恵庭市）

◆ 「今度、読み聞かせに参加してみようと思いますが、いつやっているのかな。絵本とか読んでくれるのでしょうか。」（士別市）

◆ 「子どもも親も、楽しんで絵本を読んでいます。二人きりで家の中にいると、息が詰まってくるときがありますが、本を声に出して読むことで、気分転換が出来ます。
　資金面等大変な面があると思いますが、是非続けてください。次の子どもの健診でもこの制度が続いていることを願っています。」（士別市）

◆ 「布製バッグのイラストもかわいく個人的には好きですが、バッグにかかる分は絵本に予算をまわしていただいた方がありがたいです。その方がブックスタートの主旨にもあっているのでは…」（士別市）

◆ 「配付の際、読んでもらった方が、子どもはその本が好きになるみたいです。親も今まで知っていても、その本の良さに気付きました。一緒にいた３歳の姉が、ブックスタートで読んでもらった本を何度も「読んで」と言うようになりました。」（白老町）

9　ボランティアから（えにわゆりかご会）

「えにわゆりかご会」は、全国に先駆けて始まった恵庭市のブックスタートをフォローアップし、地域の子育てを支援する市民ボランティアとして誕生しました。

恵庭市のブックスタート事業は、保健センターの保健師、市立図書館員、私たち「えにわゆりかご会」のボランティアとの協力連携で行われています。９・１０か月児健診の会場となっている保健センター内には色分けされたエプロンのスタッフがいます。赤いエプロンをした「ゆりかご会」のメンバーたちが、問診や診察の待ち時間を利用して読み聞かせを行います。私たちは、赤ちゃんをあやしたり、健診に一緒に来たお兄ちゃんやお姉ちゃんたちとも絵本を通して、ゆったりとした「憩いの空間と時間」を創り出しています。

当会は、市内で読み聞かせをしている９つのグループと市民たちによって、地域を挙げて子育て支援に取り組むことを目的として設立されました。その後積極的な会員募集の呼びかけによって、現在も少しずつですが会員が増加しています。会員には、子育て中のお母さんからお孫さんがいる大先輩までいて５０人ほどおります。また、わが子への読み聞かせしか経験のない方や、各所で公演している大ベテランの方が混在しており、会員間の研修会や各活動を通して、初心者の方はスキルアップに努めています。そして、各界で活躍されている方が入会していることも当会の特徴です。複数の活動をされている方が多く多忙ですから、たくさんの方に会員登録をしていただいております。

ブックスタートは、絵本が手渡された後のフォローが大切です。当会は、ブックスタート時の読み聞かせのほかに、市の子育て支援センター事業「絵本のひろば」にも毎月出演しています。赤ちゃんが対象ですので、手作りの人形劇やパネルシアターなどを盛り込み毎回内容を工夫しています。その他自主事業として、「あそびわーるど　赤ちゃんといっしょ」を年数回企画しています。これは、参加対象を０～２歳までの乳児と保護者に設定し、絵本や紙芝居のほか童謡や折紙、手作りおもちゃ作りなど、生活の身近にあるもので子どもと一緒に遊ぶ方法を親子で楽しく学ぶ遊びワークショップです。図書館や市民会館で実施していますが、毎回大変好評です。その他、会の活動と絵本の読み聞かせアドバイスなどを掲載した会報「ゆりかごつうしん」を年６回発行。また、市内の育児サークルの依頼に応じ、おはなし会の公演も行っています。これらの活動を通して、ブックスタートで始まった親子の読書活動を継続発展させ、地域全体で楽しい子育てができる基盤作りを応援していきたいと思っています。

私たち会員は、たくさんの可愛い赤ちゃんと触れ合うことができ、大変嬉しく感じています。そして、自分たちが楽しい気持ちで行っている活動が、地域のお役に立ち、多くの方々に喜んでもらえるなんて、なんと素敵なことだろうと思っています。

ボランティアは強制や義務で行うものではありません。人によって意識や行動が流動的な場合もあります。ですから、ボランティア活動が円滑に運営存続していくためには、核となる人の存在や会員の意思統一、行政の支援や指導などの協力体制が必要不可欠と考えています。

（えにわゆりかご会　　平井　立）

10 保健師から

栗山町と白老町の保健師さんに、図書館との連携によるブックスタート事業の取り組みについて、伺いましたので紹介します。

◆　栗 山 町

平成３年頃、母子保健の取り組みとして、１歳の誕生日に絵本をプレゼントする事業を行っていました。保健師として絵本を通しての親子のふれあいの大切さを感じていましたが、その頃はまだ、保健師自身が絵本の読み聞かせの手法がわからなかったため、悩みながらも途中で止めざるをえませんでした。１４年度から、図書館との連携によって、司書さんやボランティアさんと一緒にこの事業に取り組むことができました。乳児健診の流れに応じて、司書さんやボランティアさんが保護者の方やお子さんに、丁寧に絵本の楽しさやすばらしさを伝え、絵本を通して親子のふれあいが深まるよう関わっており、待ち時間でも読み聞かせを行ってもらうことで、良い雰囲気づくりの場となっています。（河合保健師）

◆　白 老 町

平成１３年度この事業を立ち上げるために 、図書館の司書さんとボランティアさんと一緒に準備し、昨年度事業をスタートすることができました。計画段階から一緒に取り組んできたので、比較的スムーズに導入することができています。乳児健診の待ち時間を利用し、司書さんとボランティアさんが保護者とお子さんに寄り添ってお話をしています。白老町では、ブックスタートパックに「すくすくＭＡＰ」が入っており、これは「乳幼児のいる親子が利用することの多い公共施設等」の案内がわかりやすい地図になっており、育児サークルのお母さんの視点で作られていることが特徴となっています。（高谷保健師）

◆　インタビューを終えて

今回、２町の保健事業の中で、ブックスタートに関し先駆的な事業に取り組む姿勢、企画調整、他の分野との連携、住民サービスのマネージメントなどを改めて実感しました。

ブックスタート事業は、乳幼児健診などの保健事業の場を活用し、今までの図書館の利用を待つ取り組みから、司書さんが積極的に出向いて伝える取り組みになっています。しかし、健診の場は、一つのきっかけづくりであり、その後のライフステージに応じた取り組みに繋げることが必要と考えます。本当は、ここからが一番大切なことです。

図書館がなく司書さんがいない地域が北海道では約半数と聞いていますが、どこでも、子育てのベテランで既に子育てを終えている方がたくさんいらっしゃるでしょう。そのような方々をブックスタートの担い手として育成するなど、地域の実情に即した形で実践できるしくみをつくる役割を教育と保健福祉の部門が連携して行うことも必要と考えます。

この事業を保健事業に取り込むことで、地域の育児ネットワークの充実にも繋がります。未来を担う子どもたちの健やかな成長のため、『健やか親子２１』の主要課題の一つである「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」の取り組みの一環として、道内市町村において積極的な導入が図られるようお願いします。

（北海道保健福祉部子ども未来づくり推進室　栗原　南海子）

＊「健やか親子２１」～２１世紀の母子保健の主要な取り組みを提示するビジョンであり、関係者や関係機関が一体となって推進する国民運動計画です。

発行にご協力をいただいた団体等

市　町　村　等	住　　所
恵庭市立図書館	〒　061－1373　恵庭市恵み野西５丁目１０－２ 電話　０１２３－３７－２１８１
栗山町図書館	〒　069－1511　栗山町中央３丁目３０９ 電話　０１２３７－２－６０５５
士別市立図書館	〒　095－0014　士別市東４条４丁目 電話　０１６５２－９－２１５３
風連町教育委員会	〒　098－0505　風連町南町８５－２ 電話　０１６５５－３－２５３１
中頓別町教育委員会	〒　098－5551　中頓別町中頓別１８２ 電話　０１６３４－６－１３２１
白老町立図書館	〒　059－0906　白老町本町１丁目１－３ 電話　０１４４－８２－３０００
えにわゆりかご会	〒　061－1435　恵庭市中島町４－２－６ 電話　０１２３－３２－６１８１（事務局長宅）

関係機関一覧

機　　関　　名	照　　会　　先
北海道教育庁生涯学習部 生涯学習課総務グループ	〒　060－8544　札幌市中央区北３条西７丁目 電話　０１１－２３１－４１１１　内３５－５１３
北海道保健福祉部 子ども未来づくり推進室 子育て支援グループ	〒　060－8588　札幌市中央区北３条西６丁目 電話　０１１－２３１－４１１１　内２５－７７０
(財)北海道生涯学習協会 事務局	〒　060－0002　札幌市中央区北２西７かでる2.7 電話　０１１－２８１－６６６１
北海道立図書館 業務部市町村支援課	〒　069－0834　江別市文京台東町４１番地 電話　０１１－３８６－８５２１

○　本書の作成にあたっては、ＮＰＯブックスタート支援センター発行（２００３年９月）の「ブックスタート・ハンドブック2004年度（平成16年度）版」を参考にし、表現や文章の一部を許諾を得て掲載しました。